

えちぜん鉄道を核とした公共交通の活性化によるまちづくり

調査概要報告書



1 公共交通を活かしたまちづくり

(1) “あなたは、車がなくても気軽に出かけられますか”

あなたがいつも使う車がないと、何にもできないと思っていませんか。

車で送ってくれる人がいないと、どこへも出かけられないと思っていませんか。

福井に来てもらっても、車がないとどこへも案内できないと思っていませんか。

雪のときには、電車やバスを車に優先して走らせるべきだと思いませんか。

電車やバスは、使い方によって生活を豊かにできることを知っていますか。

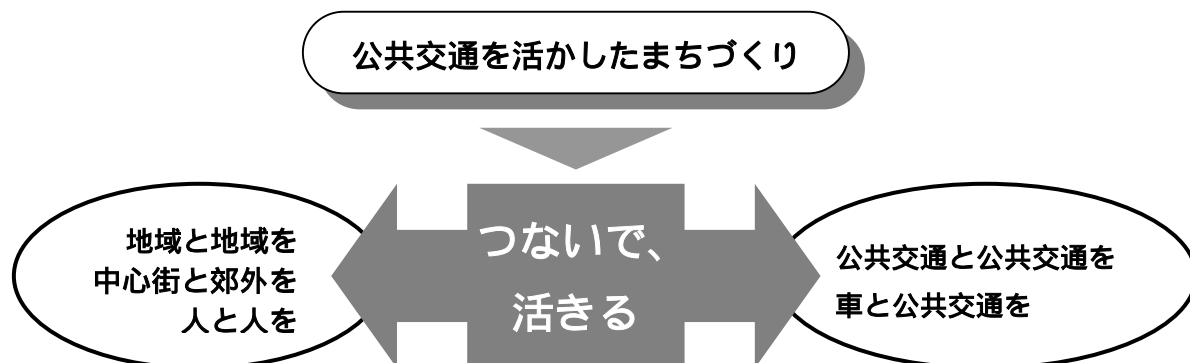
車がなくても気軽に出かけられるように、また、時には車を使わないように、私たちの生活のしかたを変えることも必要ではないでしょうか。もう一度考えてみませんか。

(2) 「公共交通」と「まちづくり」のあるべき姿

ROBAの会では、わたしたちまちの将来像として、「車との共存」による『つないで生きる！公共交通とまちづくり』を提案します。

生活しやすいまちには、車に頼らなくても、電車やバスといった公共交通で便利に行動できることが不可欠です。

福井は、車に頼ったまちですが、車と公共交通がそれぞれの長所を活かし、短所を補う「車と公共交通との共存」により、便利な公共交通の環境をつくり、地域に住む人、働く人、訪れる人、また子どもやお年寄りにとって、また日ごろ車にしか乗らない人にとっても、快適で豊かな暮らしやすいまちの基礎ができると考えます。



2. つないで生きる！公共交通とまちづくり

『つないで生きる！公共交通とまちづくり』とは、公共交通と公共交通を、車と公共交通をつなぐことで、地域と地域を、中心街と郊外を、人と人をつなぎ、まちに活力を与え、まちづくりを進めていくことです。



利用できる施設がいっぱい

駅やバス停は利用者が多いところに設置されていますが、必ずしも利用したい施設の近くに駅やバス停があるわけではありません。駅の近くに施設を誘致したり、人がたくさん集まる施設の近くにバスや電車の駅を設置したり、駅そのものが人の集まる施設であったりすれば、公共交通は便利な移動手段になります。

人が集まるところに

福井市南部に立地した福井県音楽堂(ハーモニーホール)は、福武線の沿線に建てられました。これに併せて、福武線にハーモニーホール駅が設置され、車でなくても施設を利用できるようになりました。



ハーモニーホール駅 (中部の駅百選)



桜町公民館を併設した西鯖江駅

わかりやすい案内

わかりやすい路線図や時刻表、運賃表などの情報は、公共交通を利用するうえで最低限必要な情報です。駅での乗り継ぎの案内サインや観光案内所情報、レンタサイクルや多目的トイレなどのサービス情報があらかじめ分かれば、公共交通はもっと利用しやすくなります。いつでも手元に置いておけるようにしたいですね。

路線の情報を(のりのりマップ)

「中心街までは行けても、その先どのバスに乗ればいいのかかわからない」安心して利用するにはわかりやすい案内や情報は不可欠です。



のりのりマップ

なめらかな乗り継ぎ

目的地まで電車やバスを乗り継ぐときにも、乗り継ぎのための待ち時間や移動が少なく、うまく乗り継いでいければ、気持ちよく利用できます。もちろん車からの乗り継ぎもなめらかにすれば、日ごろ車を使う人にも、車しか使えない人にも電車やバスを利用してもらえるようになりますね。

車から電車、バスに

福井の交通に車は欠かせませんが、車を利用する人でも目的地に駐車場を確保できず、電車やバスに乗り継ぐ人もたくさんいます。駅やバス停に隣接するパークアンドライド駐車場があれば、公共交通を利用しやすくなりますね。



パークアンドライド駐車場

安全で安心して使える公共交通

公共交通に求められることのもうひとつは、安全な交通施設であり、安心して利用できることです。公共交通は温室効果ガスの排出量が少なく、地球環境にやさしい交通施設です。誰もが利用できて、乗り降りにも心配のいらぬ、人にやさしい交通施設であれば、みんなが安心して乗れるようになります。

人にやさしく

バスや電車はいろんな人が利用するので、みんなが安心して乗れるように、お互いに助け合ったりすることが必要です。えちぜん鉄道では「アテンダント」が乗車して利用者のサポートを行っており、杖を持ったお年寄りも、車椅子の方も心強いですよね。



駅員とアテンダントによる支援

待ってる間も楽しさいっぱい

電車やバスを待つあいだも、駅やバス停の近くに喫茶店やいろいろな店があれば、待ち時間を楽しく過ごせます。駅の近くにある街のいいものを探して利用しやすしたり、駅を憩いの場やもてなしの空間とすれば、公共交通の魅力につながります。

もてなしの駅空間

えちぜん鉄道、福井鉄道の駅が併設する田原町駅では、まちづくりグループ「風流塾」とROBAの会が協力して、駅を花や緑で飾りました。楽しく過ごせる工夫で、電車を1本乗り過ごしたくなるようにしていきたいものです。



花や緑で飾られた駅

工夫でなくす不便な外出

駅やバス停が近くなって公共交通を利用できない人や、あっても利用できない人がたくさんいます。郊外のバス路線では便数も決して多くありません。誰もが気軽に外出できるように、地域の人たちが助け合うことが必要ですが、バス路線の見直しや地元企業の送迎バスなどを活用するなど、交通事業者や地域の工夫で外出が不便な地域をなくしていくことも大切です。

誰もが気軽に外出できる

家の近くの車通りのあまり激しくない道を通る「すまいる」は、毎日たくさんのお年寄りが利用しており、これまでより出かけることが多くなったようです。

こうしたちょっとした工夫から、誰もが気軽に外出でき、いきいきとした生活が送れるようになるのではないのでしょうか。

人との楽しいふれあい

バスや電車の利用を通していろんな人との出会いがあります。「おはようございます」のあいさつをしたり、利用者としてマナーを守ること大切です。また、みんなで利用する駅をみんなで使いやすくすることも必要です。駅からのまちづくりに取り組むことで、駅が地域みんなの宝として意識されるようになり、地域の人との楽しいふれあいが生まれ、まちの賑わいや地域のコミュニティが甦ってくると思っています

「おはようございます」

毎日同じ時間の電車に乗れば、顔見知りができます。地域のまちづくりが進み、地域のコミュニティが生まれてきます。また、地域外の人たちとの交流や連携によって、より多くの人たちとの出会いがあります。

駅からのまちづくり

これまで、地域の中心だった駅前、待ち合わせの場所だった駅。私たちの提案する、「つないで生きる！公共交通とまちづくり」がみんなに理解され、公共交通が見直されるようになれば、生活のスタイルも変わり、駅もまちも新しい形に変化していきます。地域の再生は、『駅からのまちづくり』で始めていきたいと思っています。

快適で便利な公共交通

公共交通に求められることは、利用者にとって快適で便利であることです。まちを移動するための交通手段として、誰もがどこへでも気軽に利用できれば、生活の足になります。少し待つだけで

乗れて、乗ることが楽しくて、まちを彩る電車やバスあったらいいと思いませんか。それに、ワンコインなら、小さい子供でも平気で乗れるようになります。

まちを彩る車両で

岡山市のMOMOや高岡市の万葉線では、低床の路面電車が街を走っています。ユニホームや電停、案内標識、関連グッズなどにトータルデザインを取り入れたMOMOは街のシンボルです。



MOMOのトータルデザイン

3. 公共交通とまちづくりを実現するためのしくみづくり

公共交通を住民の日常生活の中に位置づけ、役立たせて、豊かな生活を確保するに、新しい公共交通とまちづくりの仕組みとして、まちづくりグループ（ROBAの会等）地域住民の新しい役割と協働体制について提案します。

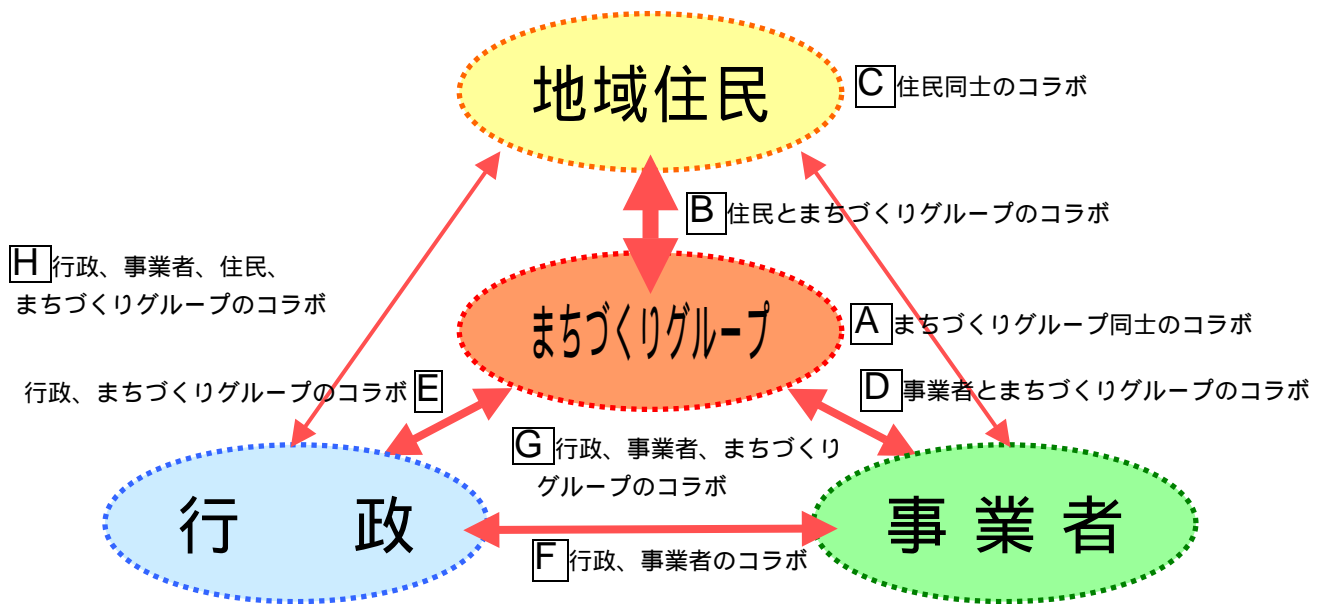
(1) 協働のまちづくりのしくみ

基本的には行政、事業者、地域住民、まちづくりグループが、それぞれの活動主体がそれぞれの立場に立って、はたすべき役割を確実に実行していくことが大切であり、そのためにもそれぞれの内部での協力をおろそかにすることはできません。それぞれの特色をもった活動主体が「協働」することで、より効果のある活動が展開できると考えています。

A B C : 利用者としての自らの意識改革、協働による「乗る」実践活動

D E : 行政や事業者との協働による「乗るしくみづくり」の実施

F G H : 行政、事業者、住民、NPOの協働による「まちづくり」や「公共投資」の実施



協働のまちづくりのしくみのイメージ

(2) 協働のまちづくりの実践シナリオ

協働のまちづくりを進めていくには、きっかけづくりや、展開方法など、継続的な活動を進めていくためのシナリオを同時に描いておく必要があります、このしくみは協働の公共交通とまちづくりの根幹を占めるものです。

「コラボ」(= 福井版まちづくりキャラバン) は、ROBAの会としても最も力を入れており、それぞれの特色をもった活動主体が「協働」することで、より効果のある活動が展開できると考えています。

4 . 協働による公共交通とまちづくりの実践と提案

4 - 1 地域の駅からのまちづくりの実践と提案

生活拠点 ・地域のまちづくりのなかで、駅、バス停を活かした展開を実施または想定できるところ	地域中心地	松岡駅、勝山駅、西鯖江駅 (神明駅、三国駅、永平寺口駅、越前大野駅など)
	住宅地	新田塚駅、鳥羽中駅(越前新保駅、家久駅など)
	郊外地	美山駅(西田中バス停など)
交通拠点 ・複数の公共交通があり、都市の中心街や公共交通の乗り継ぎ拠点となっているところ	中心街	福井駅前(武生駅前、鯖江駅前など)
	交通結節点	田原町駅、ベル前駅

地域中心地の公共交通とまちづくりの事例

駅名	勝山駅
公共交通名称	勝山永平寺線(えちぜん鉄道)
駅周辺の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・勝山市中心地から九頭竜川の対岸に位置している。 ・市街地郊外に平泉寺、勝山大仏、恐竜博物館など観光資源を有している。
<p>終着駅から勝山観光の出発地づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝山中心地との連絡強化 電車接続バスの充実(当面、ジャンボ乗り合いタクシーの利用促進と充実) 将来的には、中心地までの電車延伸 ・郊外の観光施設との連携 郊外の観光施設へのバス路線の拡充 勝山中心地のバス路線のターミナルの設置、えちぜん鉄道の延伸 ・地域のまちづくり活動との連携 地元では、歳の市、左義長祭り、弁天桜などえちぜん鉄道で観光客を呼ぶイベントを年12回、勝山からえちぜん鉄道で出かけていくイベントを年12回実施する計画をしている。 	
<p>勝山駅周辺地区 (コラボを通じてまとめているROBAの提案)</p> <p>九頭竜川</p> <p>まちなか観光</p> <p>勝山駅と勝山中心地との連絡強化</p> <p>「ジャンボタクシー」からえちぜん鉄道の延伸しRVへ</p> <p>勝山観光の出発地づくり ・郊外観光施設へのバス路線の拡充 ・バスターミナルの設置</p>	

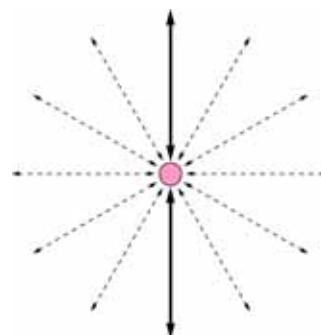
4 - 2 公共交通のシステムづくり

公共交通システムの基幹となる電車、バスのネットワーク

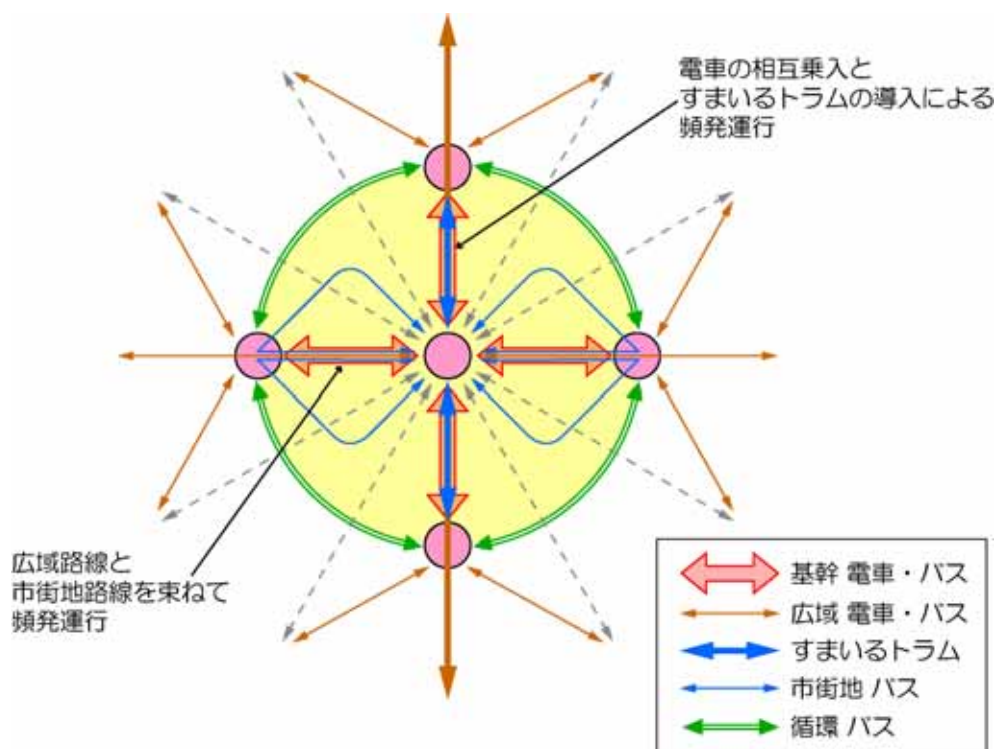
福井の公共交通に今求められている環境は、利用者にとって快適で便利であることです。これを実現するために最も重要なことは、利用者が電車やバスの時間を気にすることなく、駅やバス停に行き、最小限の待ち時間で乗車できる基幹となる路線のある公共交通システムを提供することだと考えます。

同じ運行本数で運営する場合でも、このような基幹路線とその他の路線とがうまく分担し合って連携することで、より高いサービス水準が提供できます。

市街地の公共交通システムとして、東西南北方向の基幹となる電車・バスを運行することを提案します。



現在の公共交通システムの概念図



福井の公共交通システムの概念図

なめらかな乗り継ぎを提供する交通結節点

福井の公共交通システムづくりを進めるためには、基幹となる電車・バスに接続する支線となる公共交通網が必要になり、これには、スムーズな乗り継ぎを提供する交通結節点の整備が不可欠です。乗り継ぎの不安や抵抗をなくするためのソフト、ハードの対策も重要です。



ホーム to ホームの事例（高岡駅）

・快適で安全な運行を支える低床型車両の導入

「快適で安全で、楽しくなければ公共交通ではない」と子供たちは、それが当然のように意見を述べてくれました。そのような運行ができる公共交通システムになるように、低床型車両の導入や軌道の整備を行うべきです。

すべての路線をユニバーサルデザイン化することが理想ですが、段階的な措置としてまず需要の多い基幹路線から先行してバリアをなくしていくことを提案します。

特に新田塚駅からベル駅までの区間に低床型車両（仮称「すまいるトラム」）の導入と電停の改善を提案します。



福井の市街地を走る
すまいるトラムのイメージ

・共同運営などによる効果的な運行、整備

福井の公共交通システムづくりには、それぞれの公共交通事業者が連携し、それぞれがもつ交通基盤を共有したうえで、運行・整備を行うことが必要であり、それによって、より充実した交通サービスを提供することが可能となります。

5 . 調査の成果とアクションプログラム

今回の調査を通じて、高齢社会における移動権を確保し豊かな生活を実現するには、公共交通の利用者減少とサービス低下という悪循環を断ち切り、公共交通の再生を図ることが不可欠であることを再認識しました。また、公共交通の再生には、公共交通への公共投資の拡大と、公共交通を活かしたまちづくりによる都市再生を同時にすすめる必要があることを確認しました。その前提条件として、地域の人たちが公共交通を生活交通の一つとして基本認識することであり、それが公共投資の拡大の合意形成につながり、地域の駅からのまちづくりによりコミュニティの形成につながる近道であると考えます。

調査で実施した各メニューの詳細な成果は、以下のとおりです。

利用者の「使いやすい情報」の提供：公共交通をみんなに乗ってもらえる交通手段にするには、利用者の立場に立った使いやすい情報の提供が不可欠です。

乗車体験による「公共交通の認識」：公共交通の分担率が数%の地方都市では、家の横を電車やバスが通っていても自分の使える交通手段として認識していない人が多く、乗車を体験してもらうことで公共交通を認識してもらうことが、第一歩です。

幅広い「情報公開」としてのシンポジウムの開催：いろいろな人たちに、幅広く公共交通に関する情報を公開するために、シンポジウムなどを通じて情報を伝達するための工夫が必要です。

「まちづくりガイドブック」の作成：公共交通とまちづくりをみんなで取り組んでいくには、だれもが分かりやすいガイドブックなどの解説書づくりが必要です。

具体的な「取り組み方法と効果」の提案：ビジョンの実現に向けて実際に活動しようとした場合に必要な取り組み方と効果について、「実践のシナリオ」として活用する必要があります。

実践を積み上げて「まちづくりデータベース」づくり：地域の協働のまちづくりを「まちづくりデータベース」として積み上げ、実践に役立たせていく必要があります。

アクションプログラム

ROBAの会では、今回の取り組みによって作成した「協働による公共交通とまちづくりのすずめ」を用いて、「実践のシナリオ」に基づいて地域住民とのコラボレーションの輪を広げることで、その成果を地域のまちづくり計画に蓄積し、一方では政策提言にも反映させながら、公共交通とまちづくりを進めていきます。それによって、地域の人たちの「車との共存」による豊かな生活が実現するものと考えています。

公共交通とまちづくりのアクションプログラム

